

週報



2016 年 年頭標語

創造主、天の父母様に似た、
真の愛を実践する
天一国の真の主人になろう！



世界平和統一家庭連合

FAMILY FEDERATION for WORLD PEACE and UNIFICATION
(旧 世界基督教統一神霊協会)

加賀家庭教会

教会長：石垣 重広

み 言

『理想相対を考える前に まず父母の前に孝子になる』

23 完全なプラスがあれば、完全なマイナスは現れるようになっていきます。完全なマイナスが現れなくても、完全なプラスがなくなるということはありません。そのようになれば、完全なプラスの立場にいる神様自体も、マイナスがなくなる時にはいなくならなければならないという結論が出ます。そのため完全なプラスは、完全なマイナスを創造するのです。

このような点から見ると、神様がアダムのあばら骨を抜いてエバを造ったというのは、アダムを手本として造ったということです。完全なプラスがあれば完全なマイナスは自然に生じるので、アダムが完全なプラスであれば、完全なマイナスであるエバは、アダムを通して生まれたということになります。これが天地の道理です。このように分かってみれば、神様は真の科学者です。

24 神様が完全な男性を造ったのは、その完全な男性のためではありません。完全なプラスは完全なプラスのためにつくったのではなく、完全なマイナスのためにつくったのです。完全なマイナスである女性のためにつくったのです。根源的な神様が絶対的な主体者であれば、神様は絶対的な対象をつくらなければならないのです。言い換えれば、神様が完全なプラスである絶対的な主体者であれば、完全なマイナスの対象を創造しなければならないのです。ですから、完全なプラスはなくなるのではなく、完全なマイナスをつくり出すのです。完全な人格者

は、じっとしていても、その環境のすべての良心的な存在がその周辺に集まり、その人に似ようとするのです。それと同じことです。その主体者の前に対象圏を確保するために、すべての存在物、すべての元素世界、すべての物質世界は動くのです。より価値があり、より次元の高い段階に上がるためです。すべての元素は、一段階上がって、高い階段の、より円満で、より理想的な自分を追求するのです。

25 「私」が完全な主体になるか、完全な相対になるかということが決定されてこそ、完全な理想相対が出てくるのです。ですから、先決問題は、どのように自分自身が完成するかということです。皆さんが思春期になれば異性に対して愛そうとするのですが、それよりも母様をもっと愛したという条件を立てなければならない。「孝子だ、孝女だ」、このようになってこそ神様と愛の関係を結べるのです。これが天理原則であり、創造原則です。

理想相対を考える前に、まず自分自らが父母の前に孝子にならないとすればならず、父母が孝子として公認できる愛の関係をもちなければならない。孝行しようとするれば、兄弟同士でも一つにならないとなりません。家庭において誰もが、真の模範であるということのできる話が出てこなければならないのです。それが終わったあとに理想相対が始まるのです。

(天聖經 P471~472)